

都城工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	社会学
科目基礎情報					
科目番号	0059		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電気情報工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	特になし				
担当教員	藤永 伸				
到達目標					
1 社会学で扱う内容を知り、近隣分野との相違点や類似点を知ることが出来る。 2、言語の構造や機能を理解し、具体的な例について考えることができる。 3、火の使用について、その機能や意義を具体的に考えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	社会学の対象領域を十分に理解し、近隣分野との相違点や類似点についても明確な理解を持つ。		社会学の対象領域を理解し、近隣分野との相違点や類似点についても理解を持つ		社会学の対象領域を大まかに理解し、近隣分野との相違点や類似点についても大まかな理解を持つ
評価項目2	言語の構造や機能について十分に理解し、具体的な例を多く上げることができ明確な説明ができる		言語の構造や機能について理解し、具体的な例を上げることができ説明ができる		言語の構造や機能について大まかに理解し、具体的な例を上げることができ大まかな説明ができる
評価項目3	火の使用に関し、機能や意義について十分に理解し、具体的な例を多く上げることができ明確な説明ができる		火の利用に関し、機能や構造を理解し、具体的な例を上げることができ明確な説明ができる		火の利用に関し、機能や構造を理解し、具体的な例を上げることができ、大まかな説明ができる 火の利用に関し、機能や構造を大まかに理解し、具体的な例を上げることができ、大まかな説明ができる
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	集団的存在としての人間を理解するための授業を行なう。具体的には以下のとおりである。 1、社会学がどのような学問であるか、人間の 2、人間に特徴的な言語 特徴を考え、他の学問分野との比較を通じて概観する。 と火の使用に重点を置いて具体的に検討する。				
授業の進め方・方法	講義と討論による				
注意点	1、自分を取りまく環境について自覚する。 2、物事を批判的に見る視点を養うこと。				
ポートフォリオ					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	社会学の対象1	社会学の対象を理解する。	
		2週	社会学の対象2	同上	
		3週	ウェーバーの社会学1	ウェーバーの社会学を理解する	
		4週	ウェーバーの社会学2	同上	
		5週	共同社会と利益社会1	共同社会と利益社会を理解する	
		6週	共同社会と利益社会2	同上	
		7週	近隣分野との関連1	近隣分野との関連を理解する	
		8週	近隣分野との関連2	同上	
	2ndQ	9週	人間と動物の違い	人間と動物の違いを理解する	
		10週	文化の諸相	文化の諸相を理解する	
		11週	文化理論の理解	文化理論の理解を理解する	
		12週	社会構造の指標	社会構造の指標を理解する	
		13週	人間の進化	人間の進化を理解する	
		14週	社会の多様性	社会の多様性を理解する	
		15週	社会の多様性	同上	
		16週			
後期	3rdQ	1週	言語の構造概論	言語の構造概論を理解する	
		2週	音韻と音素	音韻と音素を理解する	
		3週	言語の機能概論	言語の機能概論を理解する	
		4週	方言の諸相	方言の諸相を理解する	
		5週	ソシユールの言語論	ソシユールの言語論を理解する	
		6週	集団と言語	集団と言語を理解する	
		7週	職域方言	職域方言を理解する	

4thQ	8週	火の使用の歴史	火の使用の歴史を理解する
	9週	火の使用の歴史	同上
	10週	加工手段としての火	加工手段としての火を理解する
	11週	加工手段としての火	同上
	12週	武器としての火	武器としての火を理解する
	13週	武器としての火	同上
	14週	儀礼手段としての火	儀礼手段としての火を理解する
	15週	儀礼手段としての火	同上
16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	50	50
専門的能力	0	0	0	0	0	30	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20